

平成24年5月16日
大阪市立自然史博物館
担当：学芸課学芸員 松本 吏樹郎（昆虫研究室）
電話 06-6697-6222

大阪市立自然史博物館 第43回特別展
「のぞいてみようハチの世界～かわいい？こわい？おもしろい！～」
の開催について

大阪市立自然史博物館では、平成24年7月28日（土）から10月14日（日）まで、特別展「のぞいてみようハチの世界～かわいい？こわい？おもしろい！～」を開催します。

ハチは世界で13万を超える種を含む、昆虫の中で最も繁栄しているグループの1つです。有名なミツバチやスズメバチのように高度な社会性をもつものから、幼虫が植物を食べたり、他の虫に卵を産み付けたり、また麻酔針で狩りをするものまで、その暮らしぶりは驚くほど多様です。本特別展では、ハチの進化の道筋をたどりつつ、多数の標本、生態写真・動画によって、不思議いっばいのハチの世界に迫ります。また、身近な生き物としての人との関わりや、ちょっと怖いスズメバチとのつきあいかたについても考えます。知れば知るほど面白いハチの世界をじっくりのぞいてみます。

また、7/27(金)～29(日)の3日間、自然に興味をお持ちのブロガーの皆さんを無料でご招待します。ご自身のブログで特別展をわかりやすく紹介していただくことにより、さらに市民の皆様の自然への関心が深まり、博物館へ足を運んでいただく機会となれば幸いです。（要申込）

○プレス内覧会を開幕前日の平成24年7月27日(金)午前11時より自然史博物館本館集会室で行います。プレス内覧会取材申込書にて前日までにファックスでお申込みください。

○広報用写真、読者・視聴者プレゼント用の招待券と長居公園産のハチミツをご用意しています。

広報写真申込書、招待券申込書もファックスでお申込みください。

■開催概要

- 1 名称 特別展「のぞいてみようハチの世界～かわいい？こわい？おもしろい！～」
- 2 主催 大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター
- 3 後援(予定) 日本昆虫学会
- 4 展示協力 伊丹市昆虫館、千葉県立博物館、富山市科学博物館、西日本ハチ研究会
- 5 会期 平成24年7月28日(土)～10月14日(日)
- 6 休館日 月曜日(ただし、休日の場合は翌日)
- 7 会場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター 2階)
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23
TEL 06-6697-6221 FAX 06-6697-6225
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m
ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
- 8 観覧料 大人500円、高校生・大学生 300円(30人以上団体割引あり)、中学生以下無料。
※本館(常設展)とのセット券は、大人700円、高大生400円。
※障害者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料。
※本館(常設展)、長居植物園への入場は別途料金が必要です(セット券を除く)。
- 9 開館時間 午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

■展示の構成

1. ハチってどんな虫？

「ハチ」と聞いて頭にまず浮かぶのはミツバチやスズメバチですが、私たちのまわりには他にも様々なハチが暮らしています。ハチの拡大画像でハチの体のつくりを詳しく見て、他の昆虫とどんなところが違うのか見てみます。



実物の約100倍に拡大されたハチの精密な画像。
20種程度展示予定。

2. ハチのたどってきた道

ハチは植物食から動物食へ、そして単独生活から社会生活へとその暮らしを多様化させてきました。最近の研究で明らかになったハチの進化の道筋に沿って多様なハチの暮らしを紹介します。

フタモンアシナガバチの子育て



クロマルハナバチ



イラガセイボウ。

イラガのマユの中の幼虫に産卵する寄生バチ。青と緑の金属光沢が非常に美しい。体長12mm。

3. 自然史博物館のハチ大集合

自然史博物館には数多くのハチの標本が保存されています。これらの標本は生態学や分類学といった研究に使われると同時に、そのハチがその時その場所にいたという決定的な証拠として、地域の生物相を知る上で非常に重要な資料です。博物館のハチの標本を一挙に公開します。



クモバチの1種（ペルー産）。

タランチュラ（オオツチグモ）を狩る世界最大級のハチ。体長60mm。翅を広げた大きさは114mm。

4. ハチの調べかた

私たちの身のまわりにどんなハチがいるのでしょうか？そしてどのような暮らしをしているのでしょうか？そこにどんなハチがいるのか、どんな生活をしているのかを調べる方法を紹介します。

5. レッドデータブックのハチたち

海岸砂丘など特殊な環境に生息するハチは、そのような環境が失われる中で個体数を減らしています。絶滅が心配されるハチとその原因について考えます。

6. ハチとのつきあい方

ハチミツを貯えたり、様々なもののデザインとして取り上げられたり、ハチは人にとって役に立つ、非常に身近な存在です。一方でハチに刺されて大きな事故となったり、外国産のハチが野外に住み着いて問題となることもあります。ハチたちとどのようにしたら、うまくつきあって行けるのかを考えてみます。花の蜜からハチミツができるまでも紹介します。



セイヨウミツバチ。自然史博物館本館の講堂前で飼育中。巣の内部の観察もできる。



蜜ろうろうそくづくり。子どもワークショップでのミツバチの巣材（蜜ろう）を使ったオリジナルろうそく作りの様子。

■主な展示品 ※広報用関連画像あり

【大型ハチパネル】

実物の約100倍に拡大されたハチの**精細な画像※**です。細かい形まではっきりと見ることができます。ハチの体のつくりを詳しく見てみます。20種程度を展示予定。

【ハチの生態動画・写真】

ハチの面白さはなんといってもその多彩な行動にあります。本特別展では、多くの動画（約30点を予定）と**生態写真※**（約150点を予定）を使って、不思議なハチの暮らしに迫ります。

【世界最大級のハチ】

クモを狩るクモバチのなかまにはハチの中でも特に体の大きなものが含まれます。*Pepsis*属の**1種※**は、タランチュラ（オオツチグモ）を狩る世界最大級のハチです。翅をひろげた大きさ：114 mm。体長：60 mm。ペルー産。

【これもハチ！？】

セイボウ※や**ルリモンハナバチ※**のように美しいハチ、ウマノオバチのようにかわった形のハチ。そんな「これもハチ！？」と驚いてしまうかわったハチを展示します。

【スズメバチ・アシナガバチの巣】

日本産のスズメバチ・アシナガバチの巣を多数展示します。これらのハチは枯木をかじりとって唾液と混ぜて、巣を拡張します。表面にみられる不思議な模様は異なる枯木を巣材として使っているためです。写真は日本で最も大きな巣を作る**キイロスズメバチの巣※**です。

【コハクの中のハチ※】 昆虫を閉じ込めた宝石のように美しいタイムカプセル。

（左：ジガバチモドキの仲間、右：カ（蚊）の仲間）

産地：ドミニカ共和国産。時代：新生代漸新世後期（約 2600 万年前）。

コハクは植物から出される樹液（松ヤニのようなもの）が固まって化石となったものです。中にはしばしば、当時周辺に生息していた昆虫などを、そのまま取り込んで化石になったものがあります。これらは毛の一本一本まで観察できるほどよく保存されており、そんな大むかしの生き物とは思えないほどです。コハクの大きさ：15 mm。

【大阪にもやってくる？外来種】

近年、交通網の発達に伴い、様々な生物が本来の生息地でないところへ運ばれ、そのまま定着してしまった例が次々と発見されています。このような移入種は多くの場合、その土地の生態系に悪影響を与えると考えられています。ハチのなかまでも、**タイワンタケクマバチ**※、セイヨウマルハナバチ、アルゼンチンアリなどの海外産の種が、国内にすでに定着しています。これら外来種が引き起こすリスクについて紹介します。

【セイヨウミツバチ（生品展示）】

自然史博物館本館の講堂前で**セイヨウミツバチ**※を飼育しています。巣に出入りする様子や、巣の内部での行動が観察できます。

【楽しく学べる体験型展示】

ハチがあなたの大きさだったら獲物の重さはどれくらい？着ぐるみで狩りバチのお母さんになって子どものために重い荷物を運んだり、スズメバチの巣に近づいた時のスズメバチの威嚇の様子を体験できるコーナーもあります。

■関連行事

子供向けワークショップ、普及講演会、セミナー、ハチの観察会を行います。

<子どもワークショップ>

1. 「びっくり！どつきり！ムシのもよう」

7月21日（土）・22日（日）・9月29日（土）30日（日）

ハチの体の縞模様は、「キケン！」を知らせています。いろいろな虫の模様をじっくり観察して、あっと驚くような模様を考えます。

時間：午前11時～、11時30分～、12時～、午後1時30分～、2時～、2時30分～、3時～

1日7回実施（1回約30分のプログラムです。）

定員：各回20名

場所：7/21（土）・22（日）は自然史博物館本館1階講堂前

9/29（土）・30（日）はネイチャーホール・ワークショップスペース

対象：どなたでも参加できます。（未就学児は保護者と同伴で参加可能）

受付：当日受付（各回スタートの10分前より受付開始）

参加費：無料（高校生以上は、本館開催時は博物館入館料、ネイチャーホール開催時は特別展入場料が必要）

2. 「ミツバチのおくりもの ～てづくり ろうそく～」

①8月4日（土）・5日（日） ②8月25日（土）・26日（日） ③9月8日（土）・9日（日） 計6日間

ミツバチの「ろう」を使ってろうそくを作ります。「ろう」とは何か、ハチはどのようにして「ろう」を作るのか、ハチのからだの不思議についてハカセに聞いた後で、「ろう」を手でこねて、ろうそくを作ります。

時間：午前11時～、午後1時30分～、午後3時30分～（1回約60分のプログラムです。）

定員：1回15名（申込多数の場合は抽選）

場所：ネイチャーホール ワークショップスペース

対象：小・中学生

参加費：材料費200円（高校生以上が付き添い参加の場合は、特別展入場料が必要）

★申し込み方法：事前予約制

申込先：往復はがきまたは電子メールに「ミツバチワークショップ参加希望」と明記の上、①参加希望日時②参加者の名前（ふりがな）・年齢（学年）③〒住所④電話番号

⑤返信連絡先を書いて、締切日（※下記参照）までに下記の宛先に申し込んでください。また、博物館ホームページからも申し込みできます。

※ 申し込み締切日

①7/22 (日) ②8/12 (日) ③8/26 (日)

・〒546-0034 大阪市東住吉区 長居公園1-23 大阪市立自然史博物館「ミツバチワークショップ参加希望」

・gyouji@mus-nh.city.osaka.jp

※結果は、実施日7日前までにお知らせします。

※お湯を使います。安全面を考慮して、対象は小学生以上とさせていただきます。

3. 「かいて・あつめて ハチずかん」

8月11日 (土) ・12日 (日) ・18日 (土) ・19日 (日)

10月6日 (土) 7日 (日) 8日 (月・祝)

きれいなハチ、大きなハチ、へんなハチ。いろいろなハチの中から、お気に入りのハチを見つけて、描いて、集めて、小さな図鑑を作ります。

時間：午前11時～、11時40分～、午後1時40分～、2時20分～、3時～

1日5回実施 (1回約40分のプログラムです。)

定員：各回20名

場所：ネイチャーホール ワークショップスペース

対象：どなたでも参加できます。(未就学児は保護者と同伴で参加可能)

受付：当日受付 (各回スタートの10分前より受付開始)

参加費：材料費100円 (高校生が付き添い参加の場合は、特別展入場料が必要)

<特別展講演会> 「スズメバチはヤバイ!？」

刺されると死に至ることもある恐ろしいスズメバチ。しかし食べ物としても重宝されています。攻撃にひるまず獲得する人々、庭で飼育する人々、村おこしに活用する人々。そんな魅惑のスズメバチと世界各地の人々との深い関わりあいから、ハチへの新しい見方をお話します。

【日 時】7月29日 (日) 午後1時30分から午後4時

【場 所】自然史博物館 講堂

【講 師】野中 健一 (立教大学教授)

【参加費】無料 (ただし、自然史博物館本館入館料が必要)

<自然史オープンセミナー>

特別展「のぞいてみようハチの世界」の開催にちなみ、興味深い行動や生態、外来種や身近でちょっと怖いスズメバチのことまで、ハチの話題を博物館学芸員や館外の研究者がお話します。展示とあわせてお聴きいただけると理解がいっそう深くなります。

【日 時】7月28日（土）、8月18日（土）、9月22日（土）いずれも午後3時～4時30分

【場 所】自然史博物館 集会室

【話題提供】7月：川添和英（名古屋市）「大阪にも来る?! 移入種タケクマバチ」、8月：松本吏樹郎（昆虫研究室）「クモヒメバチの行動・生態・系統」、9月：高橋純一（京都産業大学）「ミツバチの話（仮題）」

【参加費】無料（ただし、博物館本館入館料が必要）

<テーマ別自然観察会「狩りバチの観察」>

ハチは多彩な習性をもっていますが、その中でも最も面白いものの1つは「狩り」です。地面に穴を掘って部屋をつくり、子どものエサとしてキリギリスのなかまを狩ってくるアナバチの営巣習性を観察します。

【日 時】8月12日（日）午前10時～午後3時 雨天中止

【場 所】奈良県宇陀市、あるいは大和郡山市

【対象】小学生以上（小学生には保護者の同伴が必要）

【定員】25名（定員を超えた場合は抽選）

【参加費】200円（小学生100円。自然史博物館友の会会員は無料）

【参加方法等】往復はがき、または電子メールに「狩りバチの観察に参加希望」と明記の上、参加者全員の名前、年齢、住所、電話番号、返信連絡先（往復はがきには返信用の宛名）を書いて、7月31日（火）までに届くように、自然史博物館普及係宛に申し込んでください。自然史博物館ホームページからも申込みできます。抽選の結果や集合場所など、詳しい参加方法等は返信でお知らせします。

・〒546-0034 大阪市東住吉区 長居公園1-23 大阪市立自然史博物館

・gyouji@mus-nh.city.osaka.jp

※多数の関連行事を予定しています。詳細は決まり次第、博物館ホームページなどでお知らせいたします。

■ブロガーの皆様ご招待について

特別展の広報に協力して頂けるブロガーの方 20 名を、開幕前日の一般内覧会、または開幕 2 日間のいずれかに無料でご招待いたします。

- ・一般内覧会：平成 24 年 7 月 27 日（金）午後 2 時から 4 時半まで（午後 1 時半より受付開始）
- ・開幕 2 日間：平成 24 年 7 月 28 日（土）または 29 日（日）午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入場は随時、最終入館は午後 4 時半 まで）
- ・会場：自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター 2 階）
- ・参加頂ける方：以下の 2 つの条件を両方とも満たす方
 - 1 ご自身でブログを開設されていること
 - 2 ご自身のブログに特別展の紹介記事を必ずお書きいただけること
- ・申込：電子メールに「特別展ブロガー招待申込み」と明記、名前、居住地の都道府県名、電子メールアドレス、ブログタイトル、ブログ URL を書いて、7 月 22 日（日）までに届くように博物館 総務課宛に申込んでください。7 月 24 日（火）に抽選を行い、結果を申込者全員にメールにて返信させていただきます。当選者のみ参加方法等の詳細を合わせてお知らせいたします。
- ・その他：当日参加はできません。必ず申込みをしてください。
- ・問合せ／申込先：自然史博物館 総務課 電話：06-6697-6221 メール：s-nyukansha@ocmo.jp

■ 広報用資料写真・画像（これらの資料は広報目的でのみご利用いただけます）

1. 大型ハチパネル



実物の約 100 倍に拡大されたハチの精密な画像。

2. ハチの生態写真



a. フタモンアシナガバチの子育て



b. クロマルハナバチ

3. イラガセイボウ



イラガのマユの中の幼虫に産卵する寄生バチ。青と緑の金属光沢が非常に美しい。体長 12mm。

4. クモバチの 1 種（ペルー産）



*Pepsis*属の 1 種。タランチュラ（オオツチグモ）を狩る世界最大級のハチ。体長：60mm。翅を広げた大きさ：114mm。

5. ルリモンハナバチ



水色の紋が美しいハチ。どのような生活を送っているのか、詳しくはまだわかっていない。体長 12mm。

6. キイロスズメバチの巣



巨大なキイロスズメバチの巣。しま模様は材料をかじりとってきた枯木が異なるために見える。

7. コハクの中のハチ



昆虫を閉じ込めた宝石のように美しいタイムカプセル。(左:ジガバチモドキの仲間、右:カ(蚊)の仲間) 産地:ドミニカ共和国産。時代:新生代漸新世後期(約 2600 万年前)。コハクの大きさ:15mm。

8. タケクマバチ



中国からの移入種。枯竹に巣をつくる。分布が急速に広がっていて、近畿地方での定着が心配されている。

9. セイヨウミツバチ



自然史博物館本館の講堂前で飼育中。巣の内部の観察もできる。

10. 蜜ろうろうそくづくり



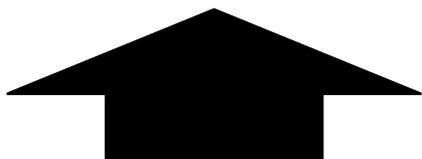
子どもワークショップでのミツバチの巣材（蜜ろう）を使った、オリジナルろうそく作りの様子。

11. はちグッズ (イメージ)



特別展を担当する学芸員が集めたはちグッズ。
(今回、販売するものではありません。)

<FAX送信>



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課広報 宛

TEL. 06-6697-6222 FAX. 06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

特別展「のぞいてみようハチの世界」

プレス内覧会 取材申請書

プレス内覧会における取材をご希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、総務課広報宛にFAXにてご返信ください。

■ プレス内覧会

〔日時〕平成24年7月27日（金）

午前11時～

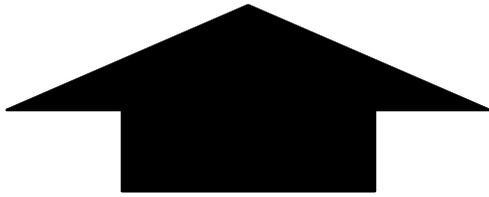
〔会場〕大阪市立自然史博物館

本館 集会室

※博物館通用口からお越しく下さい。



貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
人数（カメラ含む）	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館
総務課広報 宛
TEL. 06-6697-6222 FAX. 06-6697-6225
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

特別展「のぞいてみようハチの世界」

会期中、会場内における取材を希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、原則、取材の3日前までにFAXにてお送りください。なお撮影時間につきましては、会場の混雑状況などにより、事前に調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。また、貴媒体内での読者・視聴者プレゼントに限り、特別展の招待券を10組20名様分、ハチミツを3名様分、ご提供させていただきます。 お手数ですが、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、ビデオ、カセット、MDなど）お送りくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

取材申請、招待券・はちみつ申込書

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
取材日	平成24年 月 日 () : ~ :
人数 (カメラ含む)	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.
掲載記事・放送番組名	
掲載日 (発行日) 放送日時	
招待券・ハチミツ (いずれかに○印)	招待券を希望 ・ ハチミツを希望



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館内

総務課広報 宛

TEL. 06-6697-6222 FAX. 06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

特別展「のぞいてみようハチの世界」

広 報 用 画 像 申 込 書

本展覧会の広報用画像をご用意しております。ご希望の画像に○印をつけ、下記にご記入の上、ご返信ください。

- ・ 画像使用は本展のご紹介のみとさせていただきます。(掲載期間：平成24年10月14日まで) 使用後は、データは破棄してください。
- ・ 掲載記事、番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で総務課広報宛までFAXまたはメールをお送りください。また、掲載媒体を1部、総務課宛にお送り下さい。

No	画像名	ご希望に○	
①	大型ハチパネル		
②	ハチの生態写真	a	b
③	イガラセイボウ		
④	クモバチの一種		
⑤	ルリモンハナバチ		
⑥	キイロスズメバチの巣		
⑦	コハクの中のハチ		
⑧	タケクマバチ		
⑨	セイヨウミツバチ		
⑩	蜜ろろうそく作り		
⑪	はちグッズ		

貴社名・媒体名	
掲載・放送予定日	
所属部署／ご担当者名	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.